

審議会名	令和4年度 第2回前橋市スポーツ推進審議会
日 時	令和4年10月28日（金）午後2時00分～午後4時00分
場 所	総合教育プラザ6階 63研修室
出席者	（委員：9人） 遠藤会長、蜂須副会長、狩野委員、滋野委員、静委員、中雄委員、阿久澤委員、松本委員、曾根委員 （事務局：6人） 新井文化スポーツ観光部長、佐藤スポーツ課長、田村補佐、萩原補佐、村岡副主幹、篠原主事
欠席者	塩原委員、永井委員、小山委員
内 容	【審議会】 1 開会 2 あいさつ 3 議題 （1）審議事項 前橋市スポーツ推進計画について （2）その他 4 閉会
決定事項	・スポーツ推進計画の第1章から第3章について、案のとおり決定された。 ・キャッチフレーズについては、今後の審議を進めるなかで決定することとなった。
配布資料	前橋市スポーツ推進計画（修正案）
問合せ先	スポーツ課スポーツ施設係 027-898-5832

【審議会】

1 開会（事務局）

2 あいさつ

遠藤会長よりあいさつ。

3 議題

（1）審議事項

前橋市スポーツ推進計画について

（事務局）

資料に基づき「前橋市スポーツ推進計画修正案」を説明。

（遠藤会長）

事務局から説明のあった修正箇所や構成、キャッチフレーズについて皆さんにご意見をいただきたい。

（中雄委員）

5ページの図について、第7次前橋市総合計画は第2期県都まえばし創生プラン等の市の関連計画と繋がっているとの認識で良いか。図の表記とすると、スポーツ推進計画を中心に前橋市の関係している計画と国、県の法律や計画に分けると分かりやすい。

（静委員）

スポーツ推進計画と市の関連計画の矢印は双方向になる。

（遠藤会長）

スポーツ推進計画の表記は四角でなくて、丸にしてもよい。

（事務局）

案は、スポーツ推進計画の左に法令等、右に計画という形で整理した。

（静委員）

6ページの表1、計画年度の矢印の長さが計画期間と整合していない。

（遠藤会長）

22ページのキャッチフレーズについてのご意見を伺いたい。また、事務局から説明いただいた第3章の項目変更とキャッチフレーズについて改めて説明いただきたい。

(事務局)

第3章を基本方針と政策目標に変更した理由ですが、前橋市スポーツ推進条例に基本理念と基本目標の記載があり、この条例をうけての推進計画となりますので、条例と区別しました。キャッチフレーズ案について説明。

(遠藤会長)

2個目のキャッチフレーズは「ささえる」の後にスペース等がないと分かりづらい。

(蜂須副会長)

過去の群馬国体であった「風に向かって走ろう」はよい言葉であった。風は群馬らしさを表した言葉。キャッチフレーズに色々盛り込むと分かりづらいので難しい。

(狩野委員)

ひとつひとつ良さがある、これと言うのは難しい。

(滋野委員)

「風に向かって」という部分は良いと思った。「風に向かって」のように、何か前橋にちなんだ物が入るとよい。

(曾根委員)

2つ目のキャッチフレーズがよい、人々を入れなければスッキリするのではないか。

(松本委員)

キャッチフレーズに「する」「みる」「ささえる」は活かしたほうがいい。する、みる、ささえる、スポーツで人々がつながるまち、など入れ替えてもよい。

(阿久澤委員)

「する」「みる」「ささえる」が前橋市の特色だと思うので、入れたほうが良い。

(中雄委員)

前橋市の現状で各種データを示している、これを見ると多文化共生社会や高齢化社会につながっていくので生涯スポーツという言葉を入れてもよい。群馬県らしさでいうと外国人の割合が多いので多文化共生とそれをつなぐスポーツなどと言葉を組み合わせてもいいのではないか。群馬県は地理的な中心ということでスポーツの発信地という事をいれてもよい。独創性を出すのであれば、「する」「みる」「ささえる」以外の言葉を入れてもよい。

(静委員)

キャッチフレーズは計画の顔になってくるので、キャッチフレーズを最初に決めるのではなく、最終的に内容が決まった後に決めてもよいのではないか。

「する」「みる」「ささえる」は全国的なことばで伊勢崎市も使っている、そういった点も踏まえ、最終的に決めることでいいのではないか。

(遠藤会長)

「する」「みる」「ささえる」を使って前橋らしさを入れるのはよい。

(狩野委員)

前橋の水はどうか、県外から来る方からは水が美味しいと聞くので、紹介しても良いと思う。

(中雄委員)

トータル的には自然、前橋ではないが県の特色としては温泉になる。しかし、スポーツから離れすぎると分かりづらくなる。「する」「みる」「ささえる」は教科書に載っているのだから、世代が若くなるほど承知しているが、逆に上の世代は分かりづらい。「する」「みる」はわかりやすいが「ささえる」はピンとこない世代もあると思う。12～14ページの課題と対策がコロナの影響を受けているものに見受けられるので、そこは関連付けずにどういう形でスポーツを普及・推進させていくのかと前橋らしさを合わせていけるキャッチフレーズがよい。

(遠藤会長)

「する」「みる」「ささえる」を使い、4章以降の議論の中で、そこに前橋らしさを考え取り入れてキャッチフレーズを決めて行った方がよいとの意見がでた、事務局はそういう方向で進めることで良いか。

(事務局)

承知しました。

(蜂須副会長)

「する」「みる」「ささえる」の言葉が出てから何年経つか、この言葉が出てきて、どの市町村もこの言葉を取り入れると思う。これに付け加えるような形で前橋市を盛り上げられると良いと思う。中尾委員、静委員がおっしゃったように時間をかけて決めることでよい。

(遠藤会長)

「ささえる」を市民の方がどうとるか。「する」「みる」はわかりやすいが、「ささえる」は金銭的な応援なのかボランティアとしての応援なのか、その「ささえる」をうまく前橋らしさで表現できればよい。栃木国体は一期一会と特産物の“いちご”をかけうまくキャッチフレーズとした。皆さんの意見のとおりキャッチフレーズについては第4章、第5章を審議しながら進めたいと思う。

(中雄委員)

スポーツと前橋らしさが繋がれば特色があるキャッチフレーズができる。富岡市だと「スポーツ文化を世界遺産へ」などがある。市として全面に発信したい誇りや強みを出していただき、スポーツと繋がられるようにしてもらおうとよい。

(遠藤会長)

市民からすると風はあまり良いイメージはないと思う。第4章～第5章を審議しながら「する」

「みる」「ささえる」を使って、うまく前橋らしさをキャッチフレーズに入れることで検討していくということでしょうか。

(委員一同)

賛成。

(静委員)

全国的に「する」「みる」「ささえる」はキャッチフレーズとして出ている。市町村により少しずつ「する」「みる」「ささえる」の意味も変わってきている。前橋が持っている特性を計画の中に入れられればよい。

(遠藤会長)

栃木国体を見に行ったときに、選手達に沿道の方がみんなで手を振ってくれて非常によい印象を受けた。

(静委員)

沿道の方が手を振ってくれることもおもてなしであって「ささえる」といった意味になる。

(滋野委員)

私も選手として国体に行ったことがあるが婦人会の方などがとても歓迎してくれた、そういった温かさを感じた。

(中雄委員)

今回は12ページ以降の対策の中に施設面や国際化が進む中で「ささえる」のなかにボランティアだけでなく、言葉の壁や各国の独自文化に伴う施設整備など考えるところはバリアフリー以外にもあると考える。本市の現状のデータをみるともっと考えられる対策はある、進める際にはそのあたりも踏まえるとよい。

(遠藤会長)

キャッチフレーズについては今日出たご意見をもとに、第4章、第5章を検討するなかで決めていきたい。

4 閉会